

地域がん治療学

Local cancer therapeutics

単位数：5単位

○磯部 威 教授：呼吸器・臨床腫瘍学 並河 徹 教授：病態病理学
田島義証 教授：消化器・総合外科学 齊藤洋司 教授：麻酔科学
磯村 実 教授：人間科学部(医学部兼務) 田村研治 教授：先端がん治療センター
津端由佳里 講師：呼吸器・化学療法内科 橋本龍也 講師：緩和ケアセンター

1. 科目の教育方針

地域がん治療学においては、地域に多い高齢者のがん診療に精通し、地域連携を推進し、地域貢献のマインドを有する全人的ながん診療の専門家を育成する。がんの診療の基本であるがんの診断、機能評価、患者コミュニケーション、治療適応の判断、緩和ケア、包括的な患者マネージメントについて学び、切れ目のないがん医療を医師、看護師、薬剤師、メディカルソーシャルワーカーなど多職種によるチームオンコロジーの構築と展開について習得することを目標とする。また、プログラムはがん治療認定医機構ならびに日本臨床腫瘍学会のカリキュラムに準じて横断的、段階的に作成されており、本コースを履修することでがん治療に関する認定医、専門医などの資格試験に求められる知識を確保することが可能となる。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) がん診療の実践に必要な臨床的知識を獲得する。
- 2) がん診療において必要とされる包括的なマネージメントについて理解する。
- 3) がん治療認定医機構の認定医ならびに日本臨床腫瘍学会認定のがん薬物療法専門医資格試験の受験に必要なレベルに到達する。
- 4) 地域がん診療に必要な地域医療学、病診連携について学ぶ

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) がんに関する基礎医学的知見を説明できる。
- 2) がんの心理社会的側面・倫理的側面を説明できる。
- 3) がんの治療に関する基本原理を理解し、説明できる。
- 4) 地域がん診療に必要な地域医療学、病診連携が説明できる。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。講義は主としてオンラインで行うこととし、Teams 等によるライブ配信を中心にオンデマンドを併用する。講義方法に変更（オンライン⇒対面等）がある場合には都度、連絡を行う。

4. 成績評価の方法

すべての講義および演習が終わった後、規定の出席率（2/3以上）を満たした学生に対し、課題を呈示し、レポートの提出等を指示する。そのレポート等を行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

【参考図書】

- 1) 日本臨床腫瘍学会編集による「新臨床腫瘍学 改訂第5版」、南江堂、2019.
- 2) 佐藤隆美：What's New in Oncology がん治療エッセンシャルガイド改訂第4版、南山堂、2019.
- 3) 国立がん研究センター内科レジデント編：がん診療レジデントマニュアル第8版、医学書院、2019.

※他、適宜文献、資料などを配布する。

6. 教育内容

回	授業内容	担当
1	山陰地区のがん医療の現状と地域がん対策	磯部 威
2	病診連携と ICT	磯部 威
3	病理学、臨床検査医学、分子生物学	並河 徹
4	家族性腫瘍、遺伝子診断	磯村 実
5	高齢者のがんの特徴	津端由佳里
6	高齢者機能評価	津端由佳里
7	消化器がんの手術適応	田島義証
8	地域におけるがん薬物療法（1）外来化学療法	津端由佳里
9	地域におけるがん薬物療法（2）地域連携パス	津端由佳里
10	副作用対策（1）血液毒性	田村研治
11	副作用対策（2）非血液毒性	田村研治
12	終末期ケア（1）疼痛管理	齊藤洋司
13	終末期ケア（2）コミュニケーションスキル	橋本龍也
14	演習（模擬試験）	磯部 威
15	総括	磯部 威